

令和5年度
地域福祉コーディネーター事業
の評価について

【事業概要】

地域福祉における地域と行政，専門機関等とのネットワーク構築と地域の生活課題を解決する包括的な相談支援体制づくりを進めるとともに，住民が主体的に地域課題を把握し，解決を試みることができる体制の構築を支援します。

【地域福祉コーディネーターとは】

「地域福祉コーディネーター」は，制度の狭間で苦しんでいる方や既存の公的な福祉サービスだけでは十分な対応ができない方などに対し，地域福祉を育むことにより，地域の生活課題の解決に向けた取組を行います。主な役割としては，地域の生活課題やニーズを発見し，受け止め，地域組織や関係機関と協力しながら，地域における支え合いの仕組みづくりや地域での生活を支えるネットワークづくりを行います。

令和5年度の実績

【決算額】

63,838千円

調布市地域福祉計画に基づき，8つの福祉圏域全てに配置された地域福祉コーディネーターにより，地域の福祉課題やニーズを発見し，受け止め，地域組織や関係機関と協力しながら，地域における支え合いの仕組みづくりや地域での生活を支えるネットワークづくりを進めた。

具体的には，重層的支援体制整備事業の取組の下，以下のとおり，主に4つの観点から取組を進めた。

①アウトリーチ等を通じて潜在的な支援ニーズを抱える者を早期に把握するための取組を行うとともに，地域の関係者等との連携による地域生活課題の早期把握を通じて一つの機関だけでは解決しづらい複合化，複雑化した生活課題を抱えた世帯に対し，チームアプローチによる支援に取り組んだ。

②複合化・複雑化した生活課題を抱える相談者に対し，豊富な既存資源を活用し，多分野で連携できる会議体等のネットワークを構築し，多機関協働による支援を行った。

③本人やその世帯の支援ニーズを踏まえた定着支援，フォローアップ等，地域における社会資源の活用体制構築等を行った。

④地域における多世代の交流や多様な活躍の場を確保する地域づくりに向けた支援を実施した。

相談件数は，個別支援、地域支援ともに減少し，令和4年度に比べ51件減となり，1圏域当たりの相談件数は98.4件となった。

1 事業全体に対する総括的評価、意見等

(1) 評価・委員意見等

評価	◎（目標を上回る効果がある）	10
	○（目標どおりの事業進捗・効果がある）	2
	△（目標より事業の進捗が遅れ、事業効果が低い）	0

- 従来からの業務に取り組む一方で、新しい取り組みも積極的に取り組んでいる。また、新型コロナウイルスが5類に移行したことに伴い地域でのイベントも急増したがこれにも対応できおり高く評価できる。新規等の取り組みの例をあげると、①ヤングケアラーの支援②地域福祉ファシリテーターと協働で市民ボランティア等との勉強会を実施して交流と相互の協力関係づくりに取り組んだ。③8圏域全部で「ふれあいのつどい」を開催して地域市民の交流を図っている。④地域包括支援センター、調布ゆうあい福祉公社、福祉団体との情報共有や相互協力を更に進めている。⑤地域のお祭り、防災訓練、居場所活動、障害児者との交流、公民館事業等に積極的に参加して交流を4図るとともにニーズの吸い上げに取り組んでいる。⑥企業などが保有する小ホールなどを地域の居場所に開放してもらう取り組みをしている。
- 幅広く様々なニーズにこたえられるような活動されていることは、評価いたします。
- 地域福祉コーディネーターの人員が多いとは言えないにも関わらず働きかけの件数は評価できる。ひだまりサロンや子ども食堂など地域住民が交流できる拠点が増えてきたので今後の展開に期待したい。
- 調布市の地域福祉コーディネーター制度は令和5年度で11年目に入り、8圏域への専任配置による体制強化からも5年目を迎えました。その活動は益々地域に密着しながら成果をあげて来ましたが、新型コロナウイルス感染が漸く治まった今年度は、新しい進化を感じさせる取り組みが多くあったように思います。中でも、起立性調節障害（OD）の子どもやその保護者の悩みに寄り添う活動は、不登校やその他の様々な課題を抱えた子どもや若者の存在について学校の関係者や地域の住民の方々知る契機にもなりますので、有意義な活動でした。また、要保護児童に対するケース会議への参加が増えたことは、教育と福祉という縦割りの仕組みのなかで、CSWの活動がより期待されていることの現れだと思います。今後も、教育機関との連携を深めながら、子どもやその保護者を支援する活動を継続していただくようお願いします。子ども食堂の参加者の親子を招待する海外アニメ映画試写会の企画は、CSWの活動を、企業関係者を含めて一般市民に対してPRする機会となりました。講座や勉強会だけではなく、こうした取り組みも効果的です。これからも色々なアイデアや創意工夫を期待したいと思います。「調布女子会のみ」のような他の団体が開催するワークショップの支援は、生きづらさを抱えて孤独を感じている人の一歩を踏み出すきっかけづくりにつながりました。地域との関わりを後押しする機会は色々なかたちであり得ますので、こうした経験も今後活かしていただくようお願いします。
- 地域福祉コーディネーターが、地域の課題を把握し住民の声を吸い上げており、積極的な取り組みがなされている。
- コロナ禍において難しい活動となったと思う。その中でもCSWが多くの相談やコーディネートを実現させてきたことは、大きく評価できる。タテ割りの業務ではカバーできない多数の課題の相談を受け、多機関連携に努め、支援に繋げている事業と評価できる。
- コロナ禍において難しい活動となったと思う。その中でもCSWが多くの相談やコーディネ

ートを実現させてきたことは、大きく評価できる。タテ割りの業務ではカバーできない多数の課題の相談を受け、多機関連携に努め、支援に繋げている事業と評価できる。

- 地域福祉コーディネーターのそれぞれの事業が一定の成果を上げている事を大いに評価する。参加支援、地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備においては大きな成果があった。大学との連携による地域福祉ファシリテーター養成講座を継続して開催し、地域福祉推進の担い手づくりを育成していることは大いに将来に期待できる。
- コロナ禍での相談活動に、複数の工夫がみられ、大いに評価できる。多機関との連携と、狭間相談支援等、評価できる。
- 複合的な支援ニーズが顕在化、高まる中で、地域福祉コーディネーターがしっかりと多機関協働の調整を担ってくれたことを高く評価したい。また、生きづらさを抱えるなどして、なかなか地域や社会に出て来れない方々への参加支援ができたことも評価したい。
- コロナ5類になったとはいえ、まだ活動は大変だったと思います。そんな中、様々な機関と連携して、活動の場や方法を広げられたことは素晴らしいと思います。
- それぞれの課題の具体的内容と期待される効果が明確に示され、それを具体化するための量的目標と質的目標が設定されているが、量的実績は大きく上回っている。質的成果は社会課題や個別の困難なケースへの取り組みも進めており、地域福祉コーディネーターがしっかり役割を果たしていると評価できる。

(2) 今後の検討課題等

- ①地域福祉コーディネーターの発足から長期間経過したことから、人事異動を毎年度継続して実施する時期になっている。又、人事異動に伴い若い方が新規担当になることも必要になっている。年月をかけて培ってきたフェースツウフェースの信頼関係を如何にしてつないでいくか、人生経験の少ない若い担当者の支援とノウハウの早期形成をどのように行っていくかが大きな課題である。②福祉機関、福祉団体、ケアマネジャー、ソーシャルワーカーや企業など幅広い関係先との情報共有と協働体制づくりを更に進化させていくことが課題になっている。
- 8圏域を各一人が担当するのは、難しいと思う。支えあい推進員も同じ活動しているので、一つにまとめた方が、よりきめ細やかな支援ができるのではないのでしょうか。
- 地域福祉コーディネーターの存在の認知と活動への理解の向上。地域福祉コーディネーターの評価方法について地域住民である当事者の評価の取り入れと公表の検討。
- CSWの皆さんの役割の中には、アウトリーチの活動を通じて、支援ニーズがあっても声を上げることが難しい人々や、制度の狭間にあって支援の受け皿が十分ではない人々のいわゆる潜在的な支援ニーズを探り出すことがあります。その課題解決のためには、多機関連携のようなチームアプローチだけではなく、フォーマル・インフォーマルを含めてどのような社会資源が不足しているかを明らかにする役割も期待されています。そのためには、地域の現実をより把握する必要があり、昨年度の事業評価では、公的機関や民間のNPOなどによるケース会議などにも可能な範囲で同席されることを期待すると申し上げました。令和5年度の活動では、要保護児童に対するケース会議への参加などに見られるように、そうした取組みにも積極的に挑戦されていることを高く評価したいと思います。子どもたちの抱える課題は、本人の特性と過干渉や育児放棄などの虐待など家族との関わりが結びついていることもあり、狭間のニーズの典型的な一例です。課題の程度も「要支援」から

「要保護」とグラデーションがあります。社会資源としては、最終的な養護施設などだけではなく、そこに至るまでの予防的な受け皿が考えられてもいいと思います。本人や家族に対しする保健師や社会福祉士など専門職によるマンツーマンの関わりや、「もう一つの家庭」としての居場所の設置・拡充なども考えられます。地域福祉推進会議には、縦割りの福祉に横串を刺す役割が期待されていますが、CSW の取組みはその象徴です。地域の課題を探り出すアンテナ役としての CSW の情報を推進会議が受け止めて、新しい仕組みを生み出す努力の一步を踏み出していただくよう期待しています。

- 地域住民自らが、研修等を通して活動を進めていけるようになるとうい。
- 問題を抱えている人が多くなっている昨今、今後更に相談が増えていくと思う。相談内容も多様化しており、いろいろな相談の窓口の横のつながりを作ることが必要になっていくと思う。圏域ごとにネットワークを構築するとともに、各種団体との連携を深めることが重要である。新型コロナの影響で、地域住民の生活様式も少しずつ変化してきている。その変化に合わせた取組を検討していく必要がある。
- 問題を抱えている人が多くなっている昨今、今後更に相談が増えていくと思う。相談内容も多様化しており、いろいろな相談の窓口の横のつながりを作ることが必要になっていくと思う。圏域ごとにネットワークを構築するとともに、各種団体との連携を深めることが重要である。新型コロナの影響で、地域住民の生活様式も少しずつ変化してきている。その変化に合わせた取組を検討していく必要がある。
- 地域福祉ファシリテーター養成講座の修了生について、活動の様子等を広報して欲しい。地域福祉コーディネーターの増員措置を期待する。
- さまざまな相談に対して、各団体との連携・協働の強化が課題である。地域住民の問題把握と丁寧な支援は、CSW の 8 名では人数面で苦慮。増員検討願いたい。
- 制度の狭間で悩んでいる方などはまだ多くいると思われるため、問題解決や社会資源の創出のため、多機関協働を意識しながら引き続き支援をしていくことが必要であると思う。
- 今後も一層、「教育と福祉」「医療と福祉」などの連携を密にしていけたら良いと思います。圏域に 1 人のコーディネーターでは、先々も負担が大きくなるばかりだと思います。圏域 2 人にするのはやはり難しいのでしょうか…。
- 重層的支援体制整備事業も始まり、身近な地域での複合課題を抱えるケースへの取り組みが増加してくるとともに、インフォーマルな社会資源の開発や連携づくりの必要性が増加すると考えられる。今後、身近な地域での活動も活発化すると思われる。今後は、地域福祉コーディネーターの複数配置と、日常的な連携協働するための統括的地域福祉コーディネーターの配置が必要になるのではないか。当面は、地域福祉コーディネーターと地域福祉ファシリテーターを兼務して事業を進めることも考慮しても良いのではないかな。

2 令和 4 年度における個別の事業に対する評価等

I-1 相談支援-アウトリーチ等を通じた継続的支援の取組

(1) 地域住民の相談を包括的に受け止める場の整備

① 評価

- 新しい取り組みにも積極的に取組を行うとともに新型コロナウイルスが 5 類に移行したことに伴い急増しているお祭りや防災訓練、サークル活動などの地域イベントにも積極的に参加して市民ニーズを把握して解決につなげており高く評価できる。

具体例としては、①外見では良く分からない起立性調節障害児者や家族などからの要望を受け止めて、集い勉強できる居場所「てのひらドロップ」の立ち上げ及び地域活動を支援した。②子ども食堂を市内全域で立ち上げ支援や運営支援、個別の事情を抱えている家庭との関係づくりに取組みヤングケアラー問題などの把握を行っている、又、併せてフードバンクに積極的に取組み支援の輪を広げている。③市内8圏域全部で「ふれあいのつどい」を開催して地域市民の交流を図るとともに市民ニーズの把握につなげている。④企業などが保有する小ホールなどを地域の居場所に開放してもらう取り組みをしている。

- 相談内容に沿って、対応されていることがよいと思う。
- こども食堂が地域住民や民生委員、ボランティアの協働により立ち上げられたことは社協や行政と地域住民の距離を縮めるひとつのきっかけともなり相談支援事業がより充実してくると思う。
- 質的効果の一例として、起立性調節障害（OD）の子ども持つ保護者からの要請で中学校での映写会を実施し、また、それが当事者の家族会「てのひらドロップス」の立上げにつながったことが上げられている。ODはあまり知られていない障害であるが、発達障害などと同様に不登校など二次障害を生む要因になるため、学校の先生や保護者の皆さんに啓発活動を行うことは有意義であり、評価できる。
- 潜在的な支援ニーズは、最初は個別的なものかもしれないが、それを共有する場ができることで、それぞれが多様な思いを持ちつつ繋がれる、結果として相互に支えあえるコミュニティが生まれているということが良く理解できた。
- 量的に見て目標を上回る取り組みを行っている。関係者と連携し、地域加太の把握解決に努めている。
- 保護者からの相談を受け、起立性調節障害をテーマにした映画の上映を中学校で行ったことで、多くの理解へと繋がったと思う。保護者の気持ちも大切にできたことや、悩みを持つ他の保護者へとコミュニティを広げられて、とても良い取り組みだと思う。子ども食堂の立ち上げだけでも評価に値するが、更にその中から繋がりが広がり、新たな取組へと発展していることは、とても良い取組と評価できる。
- 起立性調節障害の理解啓発のために上映会を開催し、結果OD当事者の保護者の話し合いの場の立ち上げに寄与できたこと、また子ども食堂が無かった地域に、初めて子ども食堂を立ち上げることができたことを評価する。
- 子ども所工藤が立ち上がり、子ども支援センターやヤングケアラーコーディネーター等とも連携。住民相談の場や見守り増大へつながり、評価できる。地域福祉コーディネーターの認知度が高くなることは、問題発生時等に相談がしやすい環境の構築となり、評価に値する。
- 場の構築への検討について、量的目標を量的成果が大きく上回っていることが素晴らしい。障害などを抱える子を持つ親に対して親身に対応し、多機関と協働しながら、保護者同士が話せる場を立ち上げたことは大いに評価できる。
- 最近はOD（起立性調節障害）の話をよく耳にします。なので、理解啓発に繋がる活動は素晴らしいと思います。ともすれば、誤解を受けやすい不登校関連のものは、どんどん周知して行ってほしいです。子ども食堂も地域との連携で、新しい取り組みが行われ

ていることは、とても評価できると思います。

- 周りの理解が得にくい起立性調節障害への取り組み、PTAの協力をえて、テーマの映画上映を行ない、家族同士のつながりが生まれ「てのひらドロップス」が生まれた取り組みは、ここでなら当事者家族が気軽に話し悩みを把握できる。周りの理解も進む可能性がある良い取り組み

②検討課題や今後の期待

- 本当に支援を必要としている方になかなか届かないところが難しい。周知を続けてほしい。
- こども食堂を地域住民の相談を包括的に受け止める場として機能させるため誰もが参加しやすいようにするなど運営方法に工夫が必要ではないか。
- 今後もCSWとして様々な課題を抱えた子どもたちへの支援にも積極的に取組まれることを期待する。
- 新規相談には課題の本質がなかなか見えない混沌としたケースもあるので、CSWだけでなく、多機関の連携により見守り体制が図れることを期待する。
- 今後も様々な機関と連携し、場の周知を行い体制構築できるとよい。
- 良い取組が展開されていると思うので、更に周知を積極的に行うと良いと思う。
- 引き続き、OD当事者の支援に努めてほしい。また、子ども食堂をきっかけに地域住民の生活課題が把握できるようになることを期待したい。
- 子どものことで様々な課題を抱えた保護者へのニーズにこたえていくことはとても重要であると思う。

(2) 地域の関係者等との連携による地域生活課題の早期把握

①評価

- 次のように種々の取組みを行っており高く評価できる。①地域福祉ファシリテーターと協働で市民ボランティア等との勉強会を実施して交流と相互の協力関係づくりに取り組んだ。②地域のお祭り、防災訓練、居場所活動、障害児者との交流、公民館サークル、地区協議会などに積極的に参加して地域福祉コーディネーターの周知と交流によりニーズの把握に取り組んでいる。③企業と協働して子ども食堂参加児童を映画会に招待した際に地域福祉コーディネーターのPRを行ったことから学校でのPR会につながった。また、地域包括支援センターとの協働で学校で認知症サポーター養成講座を開催して地域福祉コーディネーターのPRも行った。
- 地域の関係者団体との連携は、出来ていると思う。お互いの情報交換の中からアイデアや支援に繋がると思います。
- 関係機関との連携によって迅速な対応、効果的な支援を期待したい。
- CSWが要保護児童対策地域協議会などのケース会議にも呼ばれることが増え、チームアプローチ支援の中での役割を担うとともに、教育機関への認知度も高まったとの報告であるが、従来、小中高生などの課題を抱えた子どもたちへの支援は、教育と福祉という縦割りの仕組みのなかで、総合的な取組みが必ずしも十分でなかったところがあった。
- さまざまな会議体に参加して他機関との連携を図っていると思うが、児童分野が特に多いのかという印象を受けた。
- ネットワーク会議の開催など、積極的に行われている。

- 関係機関と顔の見える関係性を構築したことにより、ネットワークの強化が図られたことは良かった。
- 地域の関係者等との連携は、地域生活課題の早期把握につながる。そのネットワーク構築強化を要望する。
- 家族問題において、高齢、障害、子ども分野など多機関が関わる必要があるケースが顕在化している中で、地域福祉コーディネーターが中心となったり、調整役となるなど、しっかりと役割を担ってくれていることを評価したい。このことを今後も継続してもらえると良いと思う。
- 数々の生活の課題を抱えた方たちへ、どんな支援ができるのか、ネットワークを駆使して解決へ導く形式は、とても良いと思いました。今後も、教育機関との連携を課題に頑張ってもらいたい。
- 圏域別専門職ネットワーク会議や支援会議、重層的支援会議が動き出している事、それにより各機関の役割や地域生活課題が共有できるようになった点は評価できる。

②検討課題や今後の期待

- 子どもの問題は保護者を含む家庭の問題でもあり、CSW としてもこうした現実に向き合うとともに、教育機関とも連携しながら支援に取り組んでいただきたい。
- ヤングケアラーや児童虐待等の昨今の世論もあると思うが、会議体の場をより広げていかれることを次年度期待したい。
- 他機関との連携は進んでおり、今後も地域の支援者や関係機関と情報共有し課題の把握に努めていけるとよい。
- 各関係機関と連携して、早期に問題を把握することはとても重要なことだと思うので、引き続き関係機関との連携を密にしてほしいと思う。
- 他機関連携により問題の把握・解決がよりスムーズに進むことを期待する。
- しかし、まだ始まったばかりでこれからの連携の深化に期待したい。インフォーマルな社会資源の必要性ニーズが多く上がったトのことですので、マッチングや資源創設の取り組みの強化が求められる

I - 2 相談支援 - 多機関協働の取組

(1) 地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知

①評価

- 市内8圏域別の専門職等ネットワーク会議、広域圏域の専門職等ネットワーク会議、行政との支援会議や重層的支援会議、保健所や子ども家庭支援センター、調布ゆうあい福祉公社との情報交換など行政、福祉機関、福祉団体、医療ソーシャルワーカー、地域のボランティアなど多様な関係者との情報共有により市民ニーズを適格に且つ速やかに把握して対応につなげており評価できる。
- 地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知が途上のため気軽に相談する環境ができていない。また地域コーディネーターによる啓発活動も年間1,000件を超えるものの誰もがその存在と役割を認識するまでには至っていない。
- 子ども食堂参加者の親子30名を無料招待する海外アニメ映画完成披露試写会を企業との協働により企画し、その際に一般の観客や映画の関係者にもCSWの取り組みや子ども食堂の情報を動画を使用してPRすることができたとしている。当事者のみならず一般の

人々への啓発・認知を高める上で有意義な取り組みである。

- 8 圏域と市内広域で CSW の周知を図る取り組みが進んでいると評価できる。
- 企業との連携から、新たな発展へと場を広げたことが評価できる。調布市民福祉ニーズ調査の結果からも、地域福祉コーディネーターの認知度向上は重要な課題の一つだと思う。引き続き、周知を続けて行けると素晴らしいと思う。
- 小学校の授業で子ども達に、地域福祉コーディネーター・子ども食堂について周知したこと、企業に対しても、地域福祉コーディネーターの役割を伝えることができたことを評価する。
- 地域住民相談の包括的受け入れは、アウトリーチ等を通してその存在と役割の周知が図れる。評価できる。
- 地域包括支援センターと協働することにより、小学校への働きかけができたことは評価できる。
- 企業の協力のもとに、活動が生まれるのは素晴らしいと思いました。
- 小学校の授業の一環として地域包括支援センターと協働による認知症サポーター養成講座を開催した取り組みは、子供を通して家庭に広がる事が考えられる点、誰でも将来可能性のある事、どこに相談したら良いか等が伝えられる点で良い

②検討課題や今後の期待

- 相談を受け止める場と地域コーディネーターの存在と役割について周知が進まない原因の分析と対策が必要。
- 企業との繋がりにより、福祉の支援だけでは充足できないニーズにも対応できる可能性が大きいと感じる。期待したい。
- 今後も引き続き、地域福祉コーディネーターの役割、相談場所の周知に取り組んでもらいたい。
- 企業との連携による、地域福祉コーディネーターの役割や子ども食堂情報等をまとめた動画上映と P R は、今後も、周知継続を希望したい。
- まだ認知症サポーター養成講座を開催していない小学校もあるので、今後も多機関と協働しながら小学校に積極的に関わっていくと良いと思う。
- やはり個人の力だけでは限りがあるので、たくさんの企業が立ち上がってくれるといいですね。

II 参加支援

(1) 個別性の高い支援ニーズに対する取組

①評価

- 次のように困難且つ長期間にわたる支援ニーズにも取り組んで社会生活への誘導に結び付けており高く評価する。具体的には①行政との重層的支援会議や関係団体との情報交換により精神疾患や近所とのトラブルを抱えており社会的孤立をしている成人のサポートを行い定着支援を継続している。②社会的孤立、経済的困窮、心因性病状を抱えているが制度の狭間になっている成人をサポートして多世代食堂への参加など継続支援を行っている。③長年にわたる社会的孤立を続けてきた成人のサポートにより地域のサロンと協力して徐々に自己開示出来るように継続支援している。④「調布女子会のみ」や「ちょうふのこやど」などの生きづらさやひきこもり当事者の居場所支援を継続してい

る。

- 繋がった方に対しては、丁寧で個別の対応をされていてよいと思います。
- 個別性の高い支援については、件数で押し量れるものではないので、量的質的に評価することの難しさを感じる。他機関と連携して、丁寧に支援の道筋を見出していることが理解できた。
- 当事者の状況やニーズをとらえながら支援を行っている。
- 丁寧に関わり、対応しているので、地域福祉コーディネーターの負担がかなり大きいのではないかと思う。
- 他機関連携・丁寧な継続的支援を行い個別ニーズに対応した結果、対象者の社会参加の実現につなげたことを大いに評価する。
- 複合課題を有するケースやSOS発信困難な相談者へ、関係機関と協働した丁寧な寄り添いと地域支え合い推進の立ち上げ支援は大いに評価できる。
- 個別支援については、地域福祉コーディネーターの今までの経験を活かしつつ、丁寧に対応されており、とても素晴らしいと思う。
- 支援の一つとして、様々な場所を提供する、またそのマッチングをすることは、とても大変だと思いますが、量的にも目標を達成しているのはすごいことだと評価します。

②検討課題や今後の期待

- 多様性を受け入れ 個人を尊重する観点からも個別性の高いニーズにも継続的支援を行っていくことは重要である。量的な要求に加え質的にも高度な知識、経験が必要とされるケースも少なくないと推察する。今後地域福祉コーディネーターの増員を検討する際には 様々な業界で社会経験を積んだ人材の中途採用も選択肢に入れても良いのではないか。
- メンタルな課題を抱えつつ、自身の問題を発信することが困難な人々への支援は、地域社会が連携するとともに、息の長い取組みが重要。引き続きの努力を期待したい。
- それこそ、繋がりを持つことが非常に有効であると思うので、今後も社協以外の団体やインフォーマルな支援も活用してほしい。
- 多数の相談について継続的に対応しており、様々な関係機関と連携し取り組んでいけるとよい。
- 個別の支援ニーズに丁寧に寄り添うことは大切なので、負担の軽減も踏まえて、体制を検討していった方がいいと思う。
- 個別性の高い支援ニーズの世帯の抱えている課題を解決し社会参加を促すことを地域福祉コーディネーター頼りとするのは如何なものかと思う。地域福祉コーディネーターが様々な支援活動を行っている状況を考えると、引き継ぎのできる機関が必要と思う。
- 今後もコーディネーターの負担が大きくならないよう、多機関とうまく協働していくことで、個別ニーズに応えていくと良いと思う。
- 「多世代食堂」は今回初めて聞きました。そういう場がどんどん増えて、いずれ支援されていた人が支援する側に回れる日が来ると良いですね。
- 重層的支援会議が動きだしている事が分かる。ケースで見ると複合的ニーズがよく分かる、本人や家族の同意がないと会議で相談できないという課題がある。本人同意がなくても関係者が相談できる支援会議と連会を図りながら、できるだけ迅速な対応と他分野

が協働しした対応が行なわれるように進め、経験を積み重ねていただきたい、ボランティアコーディネーターやボランティアグループ、NPOの協力をえて多様で魅力的な参加プログラムを作してほしい

(2) 狭間のニーズに対する受け皿の拡充に向けた取組

①評価

- 次のように積極的な取組を行っており高く評価する。①社会福祉法人地域公益活動連絡会との連携を進めてフードドライブへの協力やなんでも相談窓口活動を通じて、社会福祉法人が把握したニーズを地域福祉コーディネーターへつなげて解決につなげている。
- ②社会福祉法人、企業などの保有する資源を活用して狭間のニーズなどの受け皿づくりに取り組んでいる。例えば企業の地域貢献活動に地域福祉コーディネーターや地域のボランティアが協働することで地域の支援の輪が広がった、又、特別支援学級との交流などにもつながった。
- ③東京土建組合の地域貢献事業(子ども食堂)の支援では木工体験など親子が地域での交流の場づくりにつながった。
- いろいろな方面へ働きかけをしていることが評価できる。さらに、各関係者機関と連携して支援の必要な方に繋げられるようにしてほしい。
- 働きかけの量的成果としてその詳細は明らかではないものの目標数値の倍以上を達成している。
- 狭間のニーズに対する受け皿の拡充のために、社会福祉法人や企業及び既存資源等へのなどへの働きかけを行い、その量的な目標を達成していることは評価できるが、質的にどのような成果が得られたのかどうか、報告書では必ずしも明確ではない。社会福祉法人地域公益活動連絡会との連携などは、Iの相談支援に分類される活動として捉えられるのかも知れない。
- 狭間のニーズは、既存の資源だけではなかなかマッチングが難しいであろうと思う。民間企業との繋がり、協働の取り組みは新しい機運となり、評価できる。ぜひ広げてもらいたい。
- 社会福祉協議会などと協力し、工夫を凝らしながら取り組んでいる。
- 量的な視点で、働きかけが多く素晴らしいと思う。具体的な取組をしていくのは大変だと思いますが、繋げていってほしいと思います。
- 社会福祉法人地域活動連絡会との連携により、社会福祉法人から地域福祉コーディネーターへと相談がつながる仕組みを実施している事を評価する。
- 量的成果について、目標を上回っており、努力されたことを評価できる。

②検討課題や今後の期待

- 地域福祉コーディネーターの認知度を上げるためにも自治会、老人会、PTAなど小規模な会合への働きかけによって地域住民の声を拾って欲しい。
- どのような支援ニーズがあるかを見定め、社会福祉法人や企業にどのような支援メニューを期待するのかを検討する必要があると思われる。行政の仕組みを活用した新しい社会資源の創出が必要かどうかを見据える取組を期待したい。
- また、令和6年度4月から、既存の福祉にマッチしない方を対象とした有期の生活訓練事業が事業団で運営されるので(すとか)連携が図れると良いのではと思う。
- 今後はさらに様々な地域資源を発掘し連携していけるとよい。

- 相談をつなげることによって情報共有され、支援の幅が広がるので今後も継続して行って欲しい。
- 個別性の高い支援に対応可能なコーディネーターの複数配置を望む。社会福祉法人や企業及び社会資源への働きかけ623件は、評価できる。今後、狭間ニーズの受け皿機能の拡充に期待したい。
- 質的にも成果が上がっていると思われ、継続することによりさらに支援メニューが増えていくことを期待したい。
- 相談件数が少ないのは、実際に困りごとを抱えた人が少ないのか。それとも周知されていないのか、が気になるところですが、継続してやっていくことが大事だと思いました。
- 社会福祉法人地域公益活動連絡会との連会活動が活発に行なわれている、今後、さらに地区ごとや、専門性を発揮した取り組みにも期待したい

Ⅲ 地域づくりに向けた支援

(1) 地域づくりに向けた支援

①評価

- 次のように多様な取組を積極的に行っており高く評価する。①こころの健康支援センターとの連携で精神疾患を抱える利用者に、社会福祉協議会の地域イベント活動などに参加してもらい、市民との交流によって相互の理解を図った。②子ども若者支援地域ネットワーク、地域組織の地区協議会、ひだまりサロンなどに参加して、不登校、ひきこもり、起立性調節障害、いきづらさなどの当事者の声や支援活動の周知を行ったことから協力や相談につながった。③調布市社会福祉協議会が令和年6年度から改訂施行する地域福祉活動計画の策定会議に積極的に参画して市民ニーズの掘り起こしとまとめに取り組んだ。
- 地域住民自らが地域生活課題の把握とその解決に主体的に取り組めるよう、様々な働きかけを行ったことは評価できる。高齢者のみならず、メンタルな悩みを抱えた人々や家庭の問題も含めて様々な悩みを抱えた子どもや青少年たちへの支援の輪が広がっているが、これは、これまでの活動の積み重ねの結果と言える。
- ひだまりサロン、地区協などに継続的に取り組んでいる活動は十分評価できる。
- 地域での支援者を増やすことにより、地域住民主体の支援に向け取り組んでいる。
- 地域のお祭りに精神疾患や身体障害を抱えた方に参加してもらい、理解啓発とともに当事者の声を反映させることができたことは良かった。
- 地域福祉コーディネーターによる地域生活課題把握と、既存の社会資源を周知する働きかけを評価する。
- 自治会や地区協議会などに積極的な働きかけや行事参加することで、地域づくりに向けた支援を行うことができていたことを評価したい。
- 悩みや生きづらさを抱える方々とせつすることが、一番の理解啓発になると思います。継続して支援が続くことを切望します。
- サロン活動が地域に根付いて広がっている事は評価できる。

②検討課題や今後の期待

- 地域の課題を地域住民が共有できるよう地域で定期的に地域福祉コーディネーターによ

る活動報告を行って欲しい。同時地域における課題について地域住民自身が考えるきっかけにもなると思う。

- しいて言えば、地域支援作りに向けた取り組みに、公益活動連絡会を活かせないのかと感じる部分はあった。多くの社会福祉法人には、対人援助のスキルも地域との連携を大事にしたいという思いもある。場も人も提供できる地域資源の一つではないかと思うので、フードドライブや何でも相談窓口以外にも「地域に対して、やれることを考えていこう」という働きかけをしていく、CSWの立場ならそうした役割も担えるのではと期待する。(公益的取り組みは、いわゆる福祉などの事業の枠を超えて地域貢献することを目的としているので)
- 今後もイベント等の機会をとらえ、支援を広げられるとよい。
- 引き続き、団体や今まで福祉に触れてこなかった新たな層への働きかけをして、社会資源の充実に繋げてほしいと思う。
- 地域における多様な人の交流・活躍の場を確保できるよう引き続き取り組んで欲しい。
- もっと多様なタイプが生まれても良い、日だまりサロンを始め、交流の場に参加している参加者のフレイル予防などの効果を調べることに取組んで頂きたい

(2) 地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備

①評価

- 次のように活動しており高く評価する。①地域福祉コーディネーター、地域住民、民生児童委員、地域ボランティアと協力して子どもを中心とした多世代の交流とみまもりを目的とする「まごじば」を立ち上げた。更に学校、企業、神社などにも輪が広がり、フードベントリー、子ども食堂、お楽しみ会などの活動に広がった。②企業との連携により子ども食堂やワークショップ、木工体験などの地域活動を支援している。③幼児から高齢者まで多世代交流と居場所である「ふふ富士見」に協力して参加者のニーズの把握を行っている。
- 交流の拠点としてひだまりサロンが増えてきているので 地域住民の交流の場として活用し地域の支え合いへつながることを期待する。
- 地域住民の交流の場として、お年寄りのひだまりサロンや子ども食堂はその代表的なものであったが、それは、徐々に多世代交流の場にも広がっている。孫と祖父母を中心とした交流の場「まごじば」は、その一例であり、学校や地域企業、神社など多様な機関の協力を得て立上げられた。こうした取組みは、CSWのこれまでのアウトリーチの活動の積み重ねによるものであり、評価したい。
- この分野は、社協の住民協働の強みを生かして十分目標を果たせていると、特に評価できる。
- 陽だまりサロンやその他の交流場所が立ち上がったことは素晴らしいと思う。
- 東京土建調布支部の子ども食堂の立ち上げを含めて新規のひだまりサロン等交流の場所が20箇所立ち上がったことは大いに評価できる。既存の福祉関連の団体ではない団体が福祉の新たな担い手になってくれたことは、大変喜ばしいことである。
- ひだまりサロンが90箇所となり、住民の安心できる交流の場が拡大したことは評価できる。
- 交流の場が多く立ち上がっただけでなく、住民のニーズなどに合わせ、様々な形で立ち

上がったことを評価したい。

- 新たな団体が声を上げてくださるのは嬉しいですね。これも、これまでの成果の一つと言えますね。

②検討課題や今後の期待

- 新規の拠点立ち上げはもちろん、その内容も多世代交流等さまざまで、今後の広がりも非常に期待できる。
- 子ども食堂を起点として、いろいろな人が交流できる場が更に増えていくといいと思う。
- 団体の支援を継続的に行ってもらいたい。
- 常設の拠点がもっと広がって身近なところにほしい、それがあれば様々な活動が生まれるのではないかと、まごじばのような多世代交流と見守りの活動は素晴らしい、もっと広がる事を期待したい

(3) 地域住民等に対する研修の実施

①評価

- 次のように活動しており高く評価する。①地域福祉ファシリテーターと協働で市民ボランティア等との勉強会を実施して交流と相互の協力関係づくりに取り組んだ。②児童館の協力で親子向けの整理収納アドバイザーによるワークショップを開催した。このつながりで学校の支援学級での説明につながった。③いきづらさを抱える当事者の会「調布女子会のみま」でスタイリング、メイク、お花による癒しをテーマとするワークショップを開催したところ「関心があっても普通の店舗には行けなかったので今回はとても嬉しかった」と喜びの声があった。また、苦しい胸の内を地域福祉コーディネーターがじっくりと聴くことで吐露出来た。④スマホが苦手な方向けの教室を地域の防災訓練やひだまりサロンで実施して、災害時などでの活用をPRした。
- 地域住民が関心持っているテーマについて講座、勉強会、視察等を実施することは行動に移すことを躊躇している人の背中を押す効果がある。
- 地域住民等への研修の実績については、目標を大きく超えて実施出来ていると評価できる。
- 積極的に講座を実施し、内容についても工夫を凝らしている。
- 活動に興味を持ってもらう機会があるのは、今後のためにも素晴らしいと思う。
- 懇談会形式だけでなく、整理収納・スタイリング・メイク・お花のワークショップ、スマホ活用講座など、興味や関心のある企画を実施することによって当事者に参加したいという行動を起こさせたことは大変評価できる。
- 地域住民への講座・勉強会・視察等の実施は、活動参加の要因となり、期待したい。
- 生きづらさを抱えている方々への参加支援に繋がったことはとても良いことだと思った。
- こちらも教育と福祉が結びついたとても良い例だと思います。近年盛んになっている「推し活」も、生きていく上で、すごく「糧」になるものだと考えます。興味のあるものを見つけること、まずはそれを第一歩として、取り組めたら良いと感じました。
- 「調布女子会のみま」のスタイリングやメイクなどのワークショップの取り組みは、着想が優れている、これなら参加してみたいと思える、日だまりサロンでのスマホをボ

ランティアとともに準備した活動もこれからも続けてほしい

②検討課題や今後の期待

- 単発の催しに終わらず継続的に実施し参加者のフォローアップができる体制が作られることを期待したい。
- ルーテル学院大学における地域福祉ファシリテーターの養成講座は令和3年から始まり、3期生までが修了した。修了生がCSWの活動との連携を通じて、地域福祉推進の担い手の一助となるように期待する。
- ただ、CSWに求められる役割を考えると、今後は多機関と協働して（その力を借りて）実施していくことも方法の一つではないかと考える。
- より気軽に参加できるよう検討していくとよい。
- 地域活動を広めていくためにも、引き続き機会をつくっていくと良いと思う。
- 大変良い取り組みなので是非続けて欲しい。
- 今後も様々な形で、研修棟を実施することで、地域の中で困っているが、なかなか踏み出せない方への支援に繋げてもらいたいと思った。

IV 「生活困窮者等の支援に向けた地域づくり事業」対象の取組

(1) 大学との連携による地域福祉推進の担い手づくり研修の実施

①評価

- ルーテル学院大学の地域福祉ファシリテーター養成講座との連携で、地域住民等の地域福祉推進の担い手づくりを行うとともにフォローアップを行って地域での支え合いの仕組みづくりに取り組んでいる。今年度は第3回生が終了した。応募の動機は様々であるが、障害者雇用促進、ハンドマッサージ、不登校児の居場所づくり、地域ボランティアとの勉強会など各々にあった活動を行っている。自身の生活を支える仕事をしながらの活動なので制約もあるなかで各々ができる取り組みを行っており評価できる。
- 大学の養成講座を活用することは 住民が地域福祉について体系的に学ぶよい機会になる。そこで得られた知識、経験が地域で活かされることを期待したい。
- 地域福祉ファシリテーター養成講座も3期目を迎えたが、ルーテル学院大学が新規学生募集を中止するとのニュースを受け、どのように継続するのか、今後の動きが気になっている。
- 修了生が継続的に担い手として活動できるよう、研修実施に取り組んでいる。
- 地域福祉推進の担い手づくりに取り組んでいることは素晴らしいと思う。今後も計継続していけると良いと思う。
- 大学との連携により地域福祉ファシリテーター養成講座を開催し、修了生と共に地域づくり勉強会を開催していることは評価できる。
- ルーテル学院大学との連携は、地域福祉の担い手作りへの取組みとなり、大いに評価する。
- 地域福祉ファシリテーター養成講座の修了者が修了後に活動に参加されていることを評価したい。地域住民が地域のことを考えることが増えていくことはとても良いことだと思う。
- 三鷹も調布も大学が多いので、様々な大学と連携して、色々な取り組みができると良いと思います。

②検討課題や今後の期待

- 今後の課題はどのように地域福祉コーディネーターがサポートしていくかと、現在の修了生や毎年度増えていく講座の修了生が仲間としてお互いに協力しあえるサポート体制をいかに構築するかが課題です。
- 他大学でも社会連携講座を設けて、活動を単位として認定する動きがあるので、検討できると良いと思う。
- 修了生が活躍・活動できる場を増やしていけるとよい。
- 修了生が地域福祉コーディネーターの補助的役割を担えるようになることを期待している。
- 住民の中に、地域福祉ファシリテーターが増え、専門職である地域福祉コーディネーターと協働する事が出来るようになると身近な地域での住民活動や専門職との連携、様々な団体などとの連携した活動が生まれてくるようになる事が期待される

※その他御意見、御要望等（自由記載）

- 私が評価するのは今回で最後になります。この3年間にわたり地域福祉コーディネーターや地域支え合い推進員のみなさんの業務を見させていただき思うのは幅広さと深度の深さです。私達には到底真似の出来ないものです。更に、みなさんのモチベーションの高さにも敬服しております。そして、今後とも市民の生活を照らし守る灯台や救助船の役割を守りながらさらなる発展をお願いして筆を置きます。
- 昨年も同じことを書きましたが、地域福祉コーディネーターの方々の日頃の活動に感謝いたします。活動の範囲が広く、難題も多いように見受けられますので、ご負担が重すぎるのではないかと心配になります。量的成果が目標をかなり上回っている事業がありますが、結果を出すことに負担を感じているのではないかと案じています。
- 地域福祉コーディネーターの更なる活動充実に向け、各圏域1名配置から複数人の配置を希望したい。